

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

CONTENTS

「森林・林業技術交流会」を開催

特集1 ● 指導普及課

復興に向けての第一歩

美しい森林づくり ● 宮城北部森林管理署

七ッ滝

我が署の名所 ● 津軽森林管理署金木支署



平成24年度森林・林業技術交流発表会を開催（関連記事2-3p）

Vol. **108**

東北森林管理局

特集

「森林・林業技術交流発表会」を開催

指導普及課



Special Feature Article

2月6日(水)、7日(木)の両日、当局大会議室において「平成24年度東北森林管理局 森林・林業技術交流発表会」が開催されました。

この発表会は、森林・林業・木材産業の活性化等を推進するための情報提供・意見交換を行い、関係者の技術の普及・向上、さらには交流の推進に寄与することを目的として毎年開催しているものです。

今年度は、「一般の部」では、「森林技術部門」に16課題、「森林ふれあい部門」に6課題、「国民の森林部門」に10課題の計32課題、「中学・高校の部」に4課題の発表がありました。

また特別発表として2課題、「低コスト再造林の技術と東北の課題」(独)森林総合研究所東北支所、「東日本大震災における東北森林管理局の対応」(東北森林管理局)がありました。

審査結果として「森林技術部門」では、生息数が減少しているイヌワシの習性を考慮した等高線方向に伐採する列状間伐を実施し、3年間にわたり採餌場としての有効性を研究した三陸中部森林管理署の盛一樹さんが、「森林ふれあい部門」では、地域活性化を目的として設立された「上小阿仁若者会議」に参加し、地域との関わりを深めていった活動を報告した米代東部森林管理署 上小阿仁支署の佐々木嵩史さんが、「国民の森林部門」では東北地方太平洋沖地震の津波被害を受けた海岸林のアカマツ、クロマツ材をメーカー等と連携し「仙台復興合板」として商品化した活動を報告した宮城県仙台地方振興事務所の今野勝紀さんと戸島康人さんがそれぞれ最優秀賞を受賞されました。



国民の森部門の最優秀賞を受賞された今野勝紀さん



森林ふれあい部門で最優秀賞を受賞された佐々木嵩史さん



森林技術部門の最優秀賞を受賞された盛一樹さん

また、特定非営利活動法人「水守の郷七ヶ宿」の海藤節生さんが東北森林管理局林政記者クラブ賞を受賞されました。



中学・高校の部で優秀賞を受賞された大曲農業高校のみなさんの発表

「中学・高校の部」では、きのこ菌床栽培の培地の栄養剤として通常は外国産の精選フスマ等が使用されますが、秋田県産の米糠や規格外大豆などを使用して安全・安心・おいしいきのこづくりに取り組んだ研究を発表された秋田県立大曲農業高等学校のみなさんが優秀賞に選ばれました。



東北森林管理局記者クラブ賞を受賞された海藤節生さん

各部門の発表課題と審査結果は表のとおりです。

平成24年度森林・林業技術交流発表会部門別審査結果

発表部門	発表課題名	発表機関	発表者	審査結果
一般部門	クマハギ被害防除対策と提案型集約化施業の有機結合について	山形県置賜総合支庁産業経済部森林整備課	小関 秀章	
	海岸クロマツ林（風の松原）における密度管理について	米代西部森林管理署	佐渡 恒幸	奨励賞
	森林作業道の土留根株の腐朽状況	岩手大学大学院	日野 大地	
	岩手・宮城内陸地震災害復旧箇所における山腹緑化基礎工の施工方法の検討	宮城北部森林管理署	三瓶 広幸	奨励賞
	コンテナ苗による低コスト造林の普及・定着化に向けた取組み状況について	仙台森林管理署	千葉 大輔	
	低コスト施業のための高生産性作業システム定着化・普及の取組	山形森林管理署	杉田 篤信	
	北上高地のイヌフシと生物多様性の保全を目的とした等高線方向列状間伐の効果	三陸中部森林管理署	盛 一樹	最優秀賞
	刈払機安全ベルトの一考察	青森森林管理署	中島 彩夏	優秀賞
	android携帯端末を利用した収穫調査業務支援アプリケーションの開発について	下北森林管理署	照井 桂	優秀賞
	増川ヒバ施業実験林 ～ヒバ林誘導経過～	森林技術センター	岡浦 貴富 木村 正彦	
	白神山地周辺地域自然再生活動箇所の広葉樹稚樹発生状況について	津軽白神森林環境保全ふれあいセンター	三浦 利樹	
	これでいいのか複層林（施業編）	秋田森林管理署	中川 恭兵	
	ブナ天然下種更新における保育効果等の検証	米代東部森林管理署	濱田眞智子	
	生産・販売事業における需要動向に対応した採材の取組	岩手南部森林管理署 遠野支署	菊原 嘉晃	
	マネジメントによる森林・林業再生プランの推進	青森県東青地域県民局 地域農林水産部林業振興課	吉岡 昭浩	
	マツ成木におけるマツノザイセンチュウの樹体内分布 ー病徴発症初期における効率的な検出のためにー	秋田県立大学	中林 優季	奨励賞
の部	森林ふれあい部門			
	平泉古事の森の取組について	岩手南部森林管理署	平川 春樹	
	木づかい森づかいから始める水づくり	特定非営利活動法人 水守の郷七ヶ宿	海藤 節生	林政記者クラブ賞
	『あすなる自遊モリ森』の取組について	津軽森林管理署 金木支署	斎藤 健治 金澤 裕子	
	地域の若者と国有林を結ぶ取組	米代東部森林管理署 上小阿仁支署	佐々木嵩史	最優秀賞
	白神山地における新たな森林ふれあい活動の取組み	藤里森林センター	阿部 耕士 鈴木 貴幸	
国民の森林部門	鳥海山麓桑の木台湿原における自然観察プログラムの作成	秋田県立大学	佐藤 都子 齋藤 千尋	奨励賞
	木材関係者の連携による地域産業振興へ向けた取組 ～准フォレスト活動：五城目町の事例～	秋田県秋田地域振興局 農林部森づくり推進課	真崎 博之	
	海岸防災林復旧事業の取組み	仙台森林管理署	澤口 晴彦 寺田優希子	
	粘り強い海岸防災林の整備について	三八上北森林管理署	熊谷 優	
	当署における民国連携について	青森森林管理署	今 純一	
	仙台復興合板への取組について	宮城県仙台市地方振興事務所 林業振興部林業振興班	今野 勝紀 戸島 康人	最優秀賞
	国民視点を意識した森林づくりの連携	岩手北部森林管理署	小西 光次	
	クマタカ等希少猛禽類の餌不足に対応した森林施業について	三陸北部森林管理署	三浦 友敬	優秀賞
	100年生ケヤキ人工林の現況について	津軽森林管理署	畠山 和之	
	置賜森林管理署創立120年を迎えて	置賜森林管理署	塚越 威仁	
	東日本大震災被害沿岸部（岩手県陸前高田市・宮城県石巻市）への カキ養殖筏用丸太の供給と養殖漁業の復興支援について	森林農地整備センター 東北北海道整備局	那須 野俊 金澤威一郎	奨励賞
中学・高校の部	産・官・学連携による新商品の開発を目指して ～オール秋田でおいしいきのこづくりへの挑戦～	秋田県立大曲農業高等学校	藤原 里穂 竹原修一郎 高橋真里佳	優秀賞
	希少生物の保護を目指して ～日本一の生物宝庫～	山形県立村山農業高等学校	矢作 峻人 小関 千晴	奨励賞
	Fーもったいない活動	青森県立五所川原農林高等学校	加藤 湧真 前田 天斗 黒瀧 康諒	奨励賞
	森をもっと身近なものに	岩手県立盛岡農業高等学校	南澤 望 佐々木尚輝	奨励賞

美しい森林づくり 復興に向けての第一歩

宮城北部森林管理署



Build Beautiful Forest



栗原市復興ふるさと植樹の一コマ

当署管内は、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震により内陸部が、平成23年3月の東日本大震災により沿岸部が、それぞれ甚大な被害を受けました。

内陸部の被災箇所では、現在も復旧工事が行われていますが、復旧を終えた箇所の一部では、NPO団体等と連携を図り「栗原市復興ふるさと植樹活動」という植樹イベントを平成22年度から毎年行っています。この活動は、被災前の動物をはじめとする様々な生物が生活の場として利用する多様性のある豊かな森林を取り戻すことを目的に行っているもので、今年度は10月6日に約100名の参加者により、栗原市栗駒深山岳の国有林において、ブナ・イタヤカエデなど約200本の植樹を行いました。

この取組は、今年で3回目を数え参加者も年々増えてきております。また今回は、地元テレビ局が取材に訪れるなど回を重ねる毎に盛大になってきており、国



本各復旧工事箇所の状況（東松島市大曲地区）

有林野事業のPRに大いに役立っているものと考えております。署としては今後ともNPO団体等と連携を図りながら本活動をさらに充実したものにしよう取り組んでいきたいと考えております。

一方、沿岸部の被災箇所においては、地元市町村等との協議を終えた箇所から順次復旧工事に着手しており、東松島市大曲地区（天本浜公園）、気仙沼市野々下地区において本格復旧工事に着手したところです。

また、依然として行方不明者の捜索が行われている地域においては、国有林野内でも同様に捜索活動が続けられております。また、ガレキの一時処理場として宮城県に貸付している国有林野もあるほか、高台移転のための住宅用地として要望されている箇所もあります。署としては、今後も被災地域の切実な地元要請に対して最大限積極的に協力していこうと考えております。

今後、復旧工事・捜索等を終えた箇所については、林地の状況等を確認しつつ、関係部局等と連携を図りながら順次海岸防災林等の整備に取りかかる事としておりますが、沿岸被災地においてはようやく復興に向けての第一歩を踏み出した状況にあり、具体的な海岸防災林造成等のキックオフに向けて準備を進めているところです。



高台移転候補地（中央の山頂部・石巻市雄勝町船越地区）



国有林野での遺体捜索の状況（東松島市浜市地区）

森のおはなし

Column

林木遺伝子銀行110番 里帰り

森林総合研究所 東北育種場

辻山 善洋 Yoshihiro Tsujiyama

1. はじめに

平成15年12月1日に開設された「林木遺伝子銀行110番」は、天然記念物や巨樹、名木、森の巨人たち百選等の樹木が衰弱している場合など、公的機関等からの要請を受け、全く同じ遺伝子を受け継ぐ後継クローン苗木を里帰りさせるサービスです（無料）。その際、一部の苗木は現場でも保存し、要請者の許可を得たものは、研究材料として活用させて頂いています。

2 平成24年度の里帰り

平成24年度に里帰りを行った6件のうち、今回は2件の事例を紹介します。この2件とも、林野庁のジーンバンク事業に基づき収集を行ったもので、その後、地元自治体等からの里帰り要請があり里帰りさせたものです。

(1)馬場山アカマツ巨樹（青森県青森市）

原木は、樹齢700年（推定）、樹高28m、幹周660cm、浅虫温泉森林公園に隣接している馬場山国有林内に生息し、林野庁の「森の巨人たち百選」に指定されている巨木です。

林野庁のジーンバンク事業に基づき、貴重な林木遺伝資源として平成18年3月に収集、つぎ木による増殖を図り、平成20年に3本を当場内に保存しています。



写真-1 里帰り
左から遺伝資源管理課長、後継樹、浅虫林業振興協議会会長



写真-2 後継樹のお披露目式
左から青森森林管理署長、浅虫林業振興協議会会長、東北育種場長、背後に後継樹

今回の110番増殖サービス利用申込においては、「馬場山アカマツ巨樹」の管理保護を行っている浅虫林業振興協議会からの活用要望であることから受託することとなりました。平成24年5月につぎ木苗3本を里帰りさせました（写真-1）。7月には浅虫林業振興協議会主催によって後継樹のお披露目式（写

真-2）が開催され、当场からも参加させて頂きました。

(2)きみまち杉（秋田県能代市）

原木は、樹齢250年（推定）、樹高58m、胸高直径164cmの「日本一高い天然スギ」として、仁鮎水沢スギ植物群落保護林内に生息し、林野庁の「森の巨人たち百選」に指定されています。



写真-3
仁鮎水沢スギ植物群落保護林の案内看板付近に2本植栽

林野庁のジーンバンク事業に基づき、貴重な林木遺伝資源として平成17年5月に収集を行い、平成21年4月に3本を当場内に保存しています。平成21年2月



写真-4 ニツ井役場に1本植栽

に、米代西部森林管理署長より110番の要請があり、平成24年7月につぎ木苗3本を里帰りさせました。

3 おわりに

このサービスが始まってから平成24年12月までの10年間に、東北育種基本区内の6県から29件の要請があり、このうち17件について後継クローン苗木が里帰りしています。

また、東日本大震災前（2010年10月頃）に岩手県住田町にお住まいの方が集められた高田松原の松ぼっくりから採れた種による実生苗については、約600本のうち300本が平成24年5月に「高田松原を守る会」に引き継がれ、残りの苗木も平成25年度に里帰りする予定です。

「林木遺伝子銀行110番」を通じて、多くの方々から感謝の言葉を頂き、これらの樹木が地域の人たちの精神的なよりどころとなっていることを痛感させられました。

里帰りした後継クローン苗木が、立派な二代目と成長するまで、今後も所有者及び関係機関の皆様と協力し見守りながら、これからも、多くの方々にこのサービスが続けられるよう頑張ります。

「ブナ林再生」育樹ボランティア活動を支援

下北森林管理署



- 下北森林管理署①
- 下北森林管理署②
- 三陸中部森林管理署
- 仙台森林管理署①
- 仙台森林管理署②

10月23日(火)に、おつ市佐藤ヶ平地区の葉色山国有林で、NPO法人森林・環境サポート大畑、おつ市大畑町林業振興対策協議会、フォレストボランティア員及び下北森林管理署の30名が協働でブナ幼齢林の保育作業を行いました。

当該ブナ林は、かつての採草放牧地であり、平成12～13年にササ地化した跡地にブナを植栽しましたが、雪害、風害、野兎食害及びササとの競合により、植栽木の生育が遅い状況にありました。

こうした中、地域の住民やNPOの皆さんがボランティアにより故郷のブナ林を早期に再生したいとの要望に応え、平成19年から、雪害・獣害対策の支柱・ツリーシエルト設置・修理やブナの成長状況観察などを協働で行っているものです。

今年度は、5年経過したボランティア活動の効果により、成長良好なブナも確認できるようになったことから、

森林総合研究所東北支所に助言を仰ぎ、従来の支柱設置・修理主体の作業から、個々のブナの成長状況に合わせて支柱本数の減やツリーシエルトの一部カットなどの作業に力を入れるとともに、要補植箇所の確認などを行いました。

当日は、風雨の空模様でしたが、おつ市大畑流域の豊かな水資源の一助となることを願いながら、参加者全員が一生懸命作業に取り組み、事故なく作業を終えました。



支柱設置の様子

第2回下北森林管理署モニターによる国有林の視察

下北森林管理署

下北森林管理署モニター2名による第2回目の現地視察会を11月21日(水)に開催しました。

まず東通村の「アオベラ林道支線(林業専用道)新設工事」の現場に向かい、工事現場を視察しました。署担当者が林業専用道について説明し、モニターの皆さんには、路網整備の必要性を理解いただきました。



林業専用道について説明

視察しました。これまで機会がなく初めて訪れたという方もいて、マツ林の中にヒバ枯木が立ち並ぶ珍しい光景を見ていただきました。埋没林が成立した原因は未だにハッキリしていませんが、約1000年前まではこの地に豊かなヒバ林が広がっていたのは確かであり、モニターの皆さんには自然の力と自然再生の重要性を理解いただきました。



治山工事箇所の視察

今年度の現場視察は終了しましたが、来年度以降も現場視察や署主催行事へご参加いただくことで、国有林の現場を知っていただくと共にご意見やご要望をお聞かせいただく機会の提供を継続していきたいと考えています。



埋没林での記念撮影

次に同村内の「猿ヶ森海岸地区治山工事」箇所を視察しました。この工事は平成2年度から19年度にかけ、砂丘に面したマツの防風保安林内に点在するギャップに、排水路工や補植などを行ってきたものです。モニターの皆さんには、地域を飛砂災害から守る保安林の働きと治山工事の効果について、理解を深めていただきました。

最後に、「猿ヶ森ヒバ埋没林」を視

「国有林現場見学会と五葉山麓秋の森林浴」を開催

三陸中部森林管理署

10月21日(日)、国有林で実施している列状間伐実施箇所の現場見学会と、秋の紅葉が見頃となった五葉山麓での森林浴を開催しました。

当日は大船渡市、陸前高田市、住田町から一般公募による住民12名と国有林モニターの方1名の参加がありました。昨年の東日本大震災で被災し、大船渡市から住田町の仮設住宅に入居されている参加者もあり、秋の国有林を楽しむもうとバスで目的地に向かいました。



列状間伐の説明を聞く参加者

始めに、住田町の長岩山国有林に設定している列状間伐モデル林を見学しました。平成18年に伐採した時の写真と現在の状況を見比べ、下草や広葉樹の生育状況、残存木の成長の様子など、間伐の目的や効果を説明しました。ま

た、当署で行っている猛禽類に配慮した森林施業である、等高線方向に伐採する列状間伐による野生生物の生息環境整備についても紹介し、参加者から活発な質疑が出されました。

次に五葉山麓に移動し、ヒバの天然林やブナの巨木など、多彩な樹木が生い茂る森林浴道を散策しました。

昼食後、18色の秋を感じさせる和の伝統色が印刷されたカードをそれぞれの参加者に配り、それと同じ色の木の葉や枝、木の実など自然の物を探し出す「森の色合わせ」という活動を行いました。参加者は、「同じ色合いでも微妙に違って探すのが難しい。」などと言いつつ、夢中になって色合わせをする姿が印象的でした。



「森の色合わせ」を楽しむ参加者

閉会式では、「ブナの森のいい空気を吸ってお腹いっぱいになった」、「五葉山のきれいな紅葉を見て元気になった。」などの感想があり、一日の活動の印象を「森の俳句」という形で表現してもらいました。

最後に「国有林と接する機会を今後も続けていきたい。」と署長から挨拶し、行事を終了しました。

八木山南小学校と柞江小学校で森林教室を開催

仙台森林管理署

仙台市内の小学校2校より、総合的な学習の取組として森林環境教育の要望があり、10月17日(水)に八木山南小学校(仙台市太白区)、11月9日(金)に柞江小学校(仙台市青葉区)で森林教室を開催しました。



講義に聴き入る子供達 (八木山南小学校)

八木山南小学校は、金剛沢国有林(治山の森)から程近い場所に立地し、年間を通して同国有林を植生観察のフィールドとして活用していました。が、同国有林内で分収造林の伐採が行われたことから、木の伐採と環境保全の関わりについて子供達が強い関心が

あるとの先生のお話があり、5年生47名を対象に「なぜ伐採が必要なのか」をテーマに森林教室を行いました。



質疑応答に大勢の子供が挙手 (八木山南小学校)

子供達からは先生も感心される程の質問もどんどん飛び出し、終始楽しく活気のある講義となりました。終了後は、子供達や先生から「わかりやすく説明してもらい、伐採の必要性や森林の大切さについて十分理解が出来た」とお礼の言葉を頂きました。

また、柞江小学校では学校林「柞江の森」で3年生43名を対象に森林教室を開催しました。学校林は学校に隣接する個人所有の民有林ですが、自分達の遊んでいる森の樹種や生態系について知りたいとの要望があり、「柞江の森の探検」と称して林内を散策しながら生き物の観察や森の役割について講義をしました。

子供達は晩秋の植物や生き物を次々に発見。「これ何?」と不思議なものを沢山持ち寄り質問攻めとなりまし

た。特に虫コブの説明では中を割ってみて興味津々で観察していました。樹種の説明では主要樹木のほか、学校の組曲「森とこども」で歌われているシデ等の木を選定したことで、今後の学習においても今回の探検を思い出し、更に森に関心を持つてくれることを期待します。



森林の働きについて勉強（栢江小学校）

「NPO等による森づくりへの支援」

仙台森林管理署

当初管内で活動するNPOから「枝打ち」「森林調査（測樹等）」に関する講師派遣依頼が2件あり、NPO等による森づくりへの支援の一環として協力しました。

1. 「里山ネット赤坂」への支援

仙台市蒲沢山国有林に設定された

遊々の森「蒲沢里山体験の森」で活動する「里山ネット赤坂」では、11月18日（日）に約30年生のヒノキ林で「体験林業：枝打ち体験」を実施しました。里山ネット赤坂の会員15名ほか、近隣の某企業付属研究所の所員23名が参加し、枝打ち作業に汗を流しました。



枝打ちの体験

研究所の方々の参加は、今年で3年続けてのもので、日頃あまり体を動かす機会がないせいか、枝打ち作業を楽しみながら実行していました。参加者から「薄暗かった林内が明るくなり、下枝がきれいに整理されたことから、床屋に行った後のように、さっぱりとした気分です。」とコメントされた方もいらつしました。

「里山ネット赤坂」は、蒲沢山国有林に隣接する赤坂ニュータウンの住民が中心で、これまで森林とは余り縁がなかった人たちの集まりでしたが、身近にある森林に興味を持つようになった

り、平成17年に遊々の森協定を結んでからは、地元の小中学校に対する森林環境教育への協力、春秋ハイキングの実施、林内整備などを活発に実施しています。

2. 「森の案内人養成講座」への支援

「緑を守り育てる宮城県連絡会議」が実施している「森の案内人養成講座」は、昭和63年にスタートしています。昨年までに307名が受講し、うち216名が修了しました。講座修了者は、さらに専門コースに進み190名が修了しており、森林について実践的な知識や技能を習得し、現在では各ボランティア活動の中心的な役割を担っておりです。

今回の「第12期森の案内人専門コース（第7回目講座）」は、立木の測樹及び販売（価格算出）の内容で、仙台市秋保町泉口の民有林において11月25日（日）に開催し、受講生7名が参加しました。

当日は、立木の直径を輪尺で計測し、樹高は測竿を利用した比較目測と測高器（ブルーメライス、パーテックス）で実測するなど、参加者は日頃手にすることのない測樹器具を使用しての測樹体験を行いました。

また、午後からは調査データから材積を算出し、販売価格の算定（立木評定）について取り組みました。

立木の価格から伐倒搬出費などの経費を差し引いた販売価格が算出され、現在の林業経営の厳しさについて、あらためて実感したようで「森林を造る

には大変な労力と資金が必要であるのに対し、その見返りが少なすぎる。」との声が聞かれました。



測樹器具の説明

本講座により森林への理解が深めるとともに森林育成・保護への積極的な活動が期待されることから、今後も講師派遣などに協力していきます。



販売価格の算定取組



釜房湖から山形県境を眺める

私

が勤務している川崎森林事務所は、仙台市近郊の山間部に位置する川崎町に所在し、南は蔵王町（宮城県）、西は山形県山形市と接しています。そのため、毎日県境の雄大な山々を眺めながら生活しています。特に、町内の釜房湖という湖から見える蔵王連峰の景色が気に入っています。

管内の人工林では、スギ・カラマツ・アカマツを中心とした整備が行われています。天然林は奥羽山脈を中心とする山岳地帯に多く、ブナ等広葉樹を主としています。町の歴史は古く、遺跡なども点在しています。現在川崎小学校の建っている場所には1600年頃に川崎城が築城され、やがて伊達家の城主が居住するようになったと言われています。また、支倉地区には伊達政

自然と歴史に囲まれて

仙台森林管理署 川崎森林事務所（作並森林事務所併任）

高城 允

makoto takajyou



川崎伊達家の墓（龍雲寺）

宗の家臣支倉常長の墓碑があります。支倉常長という人物は、伊達政宗に命じられ遣欧使節団の副使としてローマ等で外交交渉を行った人物です。支倉常長にちなんで支倉焼という菓子もあります。

事務所周辺には観光地が多く、御釜、スキー場、国営みちのく湖畔公園という大きなイベント施設などがあります。蔵王町に隣接した青根地区には、伊達政宗公の湯治場であった青根温泉があり、良質のお湯に浸かることができます。この地を訪れる方々の中には、昭和時代の有名な作曲家・古賀政男ゆかりの地を目的にして来られる方々もいるようです。「影を慕いて」などの有名な曲は、青根の地で曲想を得たと言われています。併任している作並森林事務所管内には、作並温泉、秋保温泉、名勝磐



上原山の御釜（236林班内）

司岩などの観光地があります。これらの観光地の中には国有林と関係する場所もあり、色々な角度から国有林の持つ役割を見ることが出来ます。これからも森林の育成や木材生産に力を入れると同時に、一般の方々が国有林を見ているという事を忘れずに仕事をしていきたいと思っています。

東日本大震災後には、町内にある多くの宿泊施設が被災者の方々に施設を一部開放しました。震災から二年が経過しますが、町内では現在でも復旧工事が行われていますが、場所があります。管内国有林においても、通行不可となっている遊歩道などが見受けられる状況です。これからも復旧・復興の役に立てるよう、頑張っていきたいと思っています。

ー我が署の名所⑫ー セツ滝

津軽森林管理署金木支署

〒037-0202

青森県五所川原市金木町芦野200-498

TEL ● 0173-53-3115 FAX ● 0173-53-3197



ななつたき

セツ滝

青森県北津軽郡中泊町

この「セツ滝」は、青森県北津軽郡中泊町（旧小泊村）を通る国道339号線（通称竜泊ライン）沿いに在り、滝に隣接する国道を挟む西側には日本海が迫り、その激浪が造り出した七段の断崖は、いつしか「セツ滝」と呼ばれ、落差30mの滝は国有林から流れ出る清流を日本海へと注ぎ込んでいます。晴れた日は、滝を背に日本海越しに北海道を望むこともできます。

滝から日本海を左手に視る竜泊ラインを15・7km北上すると津軽半島の先端である竜飛岬に至ります。「セツ滝」から竜飛岬まで続く海岸線周辺は、水

際まで国有林となっていてブナと青森ヒバからなる天然林に覆われた美しい海岸です。

また、森林鉄道も昭和43年まで利用されており、「セツ滝」の上から三段目には、今でも軌道跡の石垣が残り、南側の岸壁には軌道のトンネル跡も残されています。

この周辺一帯は、津軽国定公園に指定され四季折々の風景美と津軽海峡産の海の幸に恵まれていて、真冬の地吹雪（地吹雪体験ツアー）は観光の一つとして定着しておりますので、是非、四季を通しておいでください。

Access Map

● 交通アクセス
青森県北津軽郡中泊町国道339号線（竜泊ライン）沿い



● 東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください ●

www.rinya.maff.go.jp/tohoku/
